**バルタザール：人間とマシンの二元性**

**MB&F + L’Epée 1839**

バルタザールは、ジャンピングアワー、レトログラード・セコンド表示、そして35日間のパワーリザーブを備えた、洗練され印象的な高精度ロボット型置時計です。重さ8キロ以上（18ポンド）、高さ約40cm（16インチ）のバルタザールは、マイクロエンジニア技術を駆使した美しい仕上げの618点もの部品で構成されています。

でも油断はできません。私たちの誰もがそうであるように、バルタザールにも黒い一面があります。

そのトルソーを180度回して、恐ろしいバルタザールを発見してください。その2つの半球の中のムーンフェイズ表示で、彼が見せる黒い一面に対する心構えが整います。「お前に暗黒のパワーのすごさが分かってさえいれば」とは、ダースベイダーが映画『スターウォーズ』で語る言葉です。

彼の明るい一面：35日間のパワーリザーブを誇るバルタザールの時計仕掛けは、スロージャンピングアワーとトレーリング分表示を胸部の2つのディスクに、パワーリザーブを腹部に表示します。バルタザールは、まだ穏やかながらも警戒を解きません。周囲を注意深く観察するその赤い眼は、20秒レトログラードを表示します。

ポリッシュ仕上げのガラスドームに収まったバルタザールの"脳”の働きが活性し、時計仕掛けの精密な調速機を見ることができます。静かに立っている間でもバルタザールが計算を続けていることは、常に回転するテンプで分かります。

腰部で回転するバルタザールは、まさに高精度マシンです。彼がターンする時はそれぞれのマイクロローラーの小さな衝撃を、180度回転する時はそれぞれ明瞭なノッチを感じることができます。そして全てが一変するのです。微笑みをたたえたバルタザールの黒い一面が見えてきます。その逆も然りです。

黒い一面（ダークサイド）：バルタザールの黒い一面が持つ絶対的な性質は、威嚇的な歯と深くくぼんだルビーレッドの眼を持つ冷厳なスカルに現れます。それだけが驚異なのではありません。バルタザールの胸部は、122年間も精度の変わらないムーンフェイズを表示します。ムーンフェイズは手で調整できるので、バルタザールに触れる楽しみも生まれます。

バルタザールは、時計の表示機能を超えた性能も持ち合わせます。腰部同様、肩及び肘が動き、さらに手はオブジェを握りしめて持つことができます。

そしてバルタザールの盾は、彼の偉大なる力の秘密を隠し、守ります。時計の巻き上げおよび時間設定キーを統合しているのです。

**バルタザールの甲冑は、ブラック、シルバー、ブルーまたはグリーンがあります。各色50点限定。**

**バルタザール詳細**

**バルタザール、ロボット兼置時計**

バルタザールは、複雑な高精度マイクロエンジニアリング技術を駆使した、とてつもなく頑丈なピースというだけではありません。ボディーと時計仕掛けの構築には、最も複雑な腕時計以上の、618点もの構成部品が使われています。

バルタザールのムーブメント開発には、L’Epéeがメルヒオール（MB&F とL’Epée が共同開発した両ブランドのロボット兼置時計）のために創ったムーブメントを大幅に変更しなければならず、基本的には新しいムーブメントとなっています。2つの半球の中にあるムーンフェイズ複雑機構が追加されただけでなく、バルタザールはメルヒオールより30％身長が高く、調速機と時計仕掛けの台を繋げるために、歯車列を一つ追加しなければなりませんでした。

バルタザールのサイズと見かけ以上の重さから、バルタザールのジョイント部分やムーンフェイズ表示の操作では、触る醍醐味が堪能できます。このロボットを動かすことは、ドイツ高級車のドアを上品に閉めることと似ています。高精度マイクロエンジニアリングの優れた特性以上に、この感覚は求められます。最初の段階から、手触り、知覚、さらには音に関する深い思いが欠かせないのです。チームの丹念な作業によってバルタザールが腕時計の精密性を備えていることを、鑑賞者も感じることでしょう。

バルタザールにはサプライズが満載です。ジョイントは思いがけない動き方をします（そして動く部分のあることも驚きです）。期待以上の見事な動きを感じるので、何度となく繰り返したくなります。高い性能の造りは驚きの連続で、バルタザールがどれほどがっちりとしているかを強調するのはとても難しいのです。さらなる驚きもあります。ダブルディープ スクエアソケットの巻き上げおよび時間設定キーは盾にぴったりと収まり、時計の精密さを保ちながら隠された隙間にスムーズに出入りします。

バルタザールのスカル奥にセットされた、ターミネーター風の不気味なルビーレッドの眼を注意深く覗いてみると、「形態は機能に従う」という概念をチームがいかに真剣に扱ったかを完璧に示す、究極のサプライズが待っています。これらレッドの眼は、顔面の裏側に表示される20秒レトログラード表示を支えるルビー・ベアリングです。

「L’Epée 1839には驚かされます。一緒に働けるのは本当に楽しい」 と、MB&Fの創業者、マクシミリアン･ブッサーは述べています*。* 「いかに独創的で、いかに挑戦的なデザインであろうと、彼らは常に積極的に行動するのです」。

通常のジャンピングアワー表示では、ある時間の5分前と5分後の間に起こるジャンプは明確に知覚できません。L’Epéeはそこで、スローなジャンピングアワーを開発しました。瞬間的なジャンプを見損ねるリスクをなくし、アワーディスクが55分間静止しているのを確認後、アワーが切り替わる5分前に回転を始めます。ジャンプが段階的なので、クリアに視認できます。

バルタザールのムーブメントは、インカブロック衝撃保護システムを搭載した調速機（脳内にある）を特色とし、置き時計の持ち運びによるダメージリスクを最小限に抑えます。このタイプの衝撃保護は、一般的に腕時計にのみ搭載されています。

バルタザールのムーブメントはまた、コート・ド・ジュネーヴ、ベベリング、鏡面研磨、サンドブラスト、サーキュラー及びバーティカルサテン仕上げなど、高級腕時計に施される洗練された仕上げを特長としています。しかし、置時計のムーブメントの洗練された仕上げは、構成部品が大型で表面が広いことから、腕時計の仕上げ以上の困難が伴います。L’Epéeの CEOであるアルノー・ニコラスは、「構成部品のサイズが倍になると、仕上げ時間も倍になるというような単純なことではありません。 複雑性は、指数関数的に増えます。例えば研磨仕上げですが、腕時計ムーブメントの仕上げと同じ圧力を、より大きな表面にかけなければなりません。 この圧力の偏りは仕上がりに影響するので、均等な圧力をかけるための熟練し、安定した技能が求められます」と説明しています。

多くの時間、気配りそして作業で、バルタザールの真の姿が作り上げられます。例えば、転倒リスクを抑えるために脚部に関節がないにもかかわらず、組み立て前に3部分を別々に加工・仕上げする手間をかけることで、様々な節が伸縮自在に見えるのです。また、長い爪のような歯はバルタザールの頭部にセットされています。堅牢な金属ブロックから機械加工するので、時間と費用の大きな節約になっています。そのかわり、頭部に注意深く収める前に、個々に加工しポリッシュ仕上げを施します。これら目に見えない詳細に意識が向けられることはないかもしれませんが、すべて意味のあることなのです。

**「バルタザール」という名前**

このフィクションのロボットは、アクロニム（頭字語）やHAL 9000、C-3PO、Drなど品番を思わせるニックネームをつけられます。K-9とは誰でしょう？面白いことに、マキシミリアン・ブッサーは、この21世紀ロボットに古めかしい「バルタザール」という名を与えました。

バルタザールは、メルヒオールそしてガスパールと並んで、聖書で語られる三博士のひとりです。しかしこのロボット兼置時計の名がバルタザールであるのには、もうひとつ理由があります。マキシミリアン・ブッサー曰く：「ブッサー家では、15世紀から500年以上にわたって長男はメルヒオール又はバルタザールと交互に名がつけられてきました。 私の祖父はメルヒオールという名でしたが、それを嫌がって、皆にマックスと呼ばせていました。そして私もマックスと名付けられたのです。私の祖父はメルヒオールやバルタザールという名を嫌い、私の父にマリオと名付け、500年に及ぶこの伝統に終止符を打ちましたが、100年経った今、私はメルヒオールやバルタザールという名に愛着を覚えたのです！」

**バルタザール：技術仕様**

**バルタザールは、ブラック、シルバー、ブルーまたはグリーンの甲冑があります。各色50点限定。**

**表示**

"スロー"ジャンピングアワー及びスイーピングミニッツ：MB&Fのシグネチャーニュメラルを際立たせる胸部のツインディスクが、時間と分をそれぞれ表示します。

20秒レトログラードセコンドが、眼に表示されます：それぞれの眼の赤い瞳孔が20秒間隔で走査し、秒を表示します。

35日間パワーリザーブインジケーター腹部のダイヤルが、残っているエネルギーを直観表示します。

2つの半球の中のムーンフェイズ表示："ダークサイド"の胸部にあるディスクに月の相が表示されます。

**ムーブメント**

L’Epée 1839自社設計及び製造のムーブメント

振動数：18,000 振動 / 2.5Hz

バレル：5点、シリーズ

パワーリザーブ：35日間

ムーブメント構成部品：405点

石数：62個

インカブロック衝撃保護システム

時計仕掛けは、パラジウムメッキ真鍮及びステンレススティール製

手巻き式：ダブルディープ スクエアソケットキーが、時間を設定し、ムーブメントを巻き上げます。使っていないキーは、盾にある専用スロットに収納できます。

ムーブメントには、コート・ド・ジュネーヴ（ムーンフェイズ及びパワーリザーブ ブリッジ）、ポリッシュ仕上げ、サンドブラスト、サーキュラー及びバーティカルサテン仕上げ、そして星形装飾が施されています。

**バルタザールのボディーと装甲**

サイズ：高さ39.4 cm x 幅23.8 cm （アーム位置による）x 12.4 cm （ブーツサイズ）

重さ：8.2 kg

ボディー / 装甲構成部品：213個

ムーブメントのメインプレート：パラジウムプレートを施した真鍮

ヘッド

ドーム：ポリッシュ仕上げガラスは、ポリッシュ仕上げ及びベベリングを施したパラジウムメッキ真鍮ベゼルで保護され、エスケープメント周辺にはサーキュラーブラッシュ仕上げが施されています。

スカル：ニッケルメッキを施したブロンズに、ブラッシュ仕上げ及びサンドブラスト仕上げ

歯：それぞれの歯は、ステンレススティールを機械加工して作り、スカル内に個々を組み込む前にポリッシュ仕上げを施します。

眼：レッドラッカーを塗布したステンレススティール製、20秒レトログラード・セコンド表示

トルソー

3部品から成る鎧、胸部及びCVDカラー処理を施した肩パッド2点

時間、分、パワーリザーブインジケーターが鎧に、ムーンフェイズが裏側に表示されます。

サファイヤクリスタル製保護プレート

腰部

バネ付きの精密なボールベアリングの上を回転して表示し、そして静止位置に留まります。

バルタザールの重心は、腰部周りの低い位置にあり、転倒リスクを最小限に抑えています。

脚部

それぞれの脚の重さは1.5 kgです。

それぞれの大腿骨が3パーツに分かれていることで、伸縮自在を思わせる外観と装甲に躍動感が加わります

脚、脛、脚は、ニッケルメッキを施した真鍮です。

肩及び腕

関節：腕/肩部で旋回、肘で回転、スプリングロックシステムの付いた前腕が旋回

指：それぞれの手の指2本が他の3本と交差し、物を握りしめることができます。

盾：ポリッシュ仕上げ及びレーザーによるエングレービングを施したニッケルメッキ真鍮製のダブルディープ スクエアソケットキーに、時計巻き上げ/時間設定キーを統合。

キーは、ポリッシュ仕上げ効果を最大限に長続きさせるため、パラジウム処理を施しています。

**L’EPEE 1839 –スイス第一級の時計製造所**

L'Epéeは175年以上、置時計製造の最前線を歩んでいます。今日、高級置時計製造に特化したスイス唯一の専門メーカーとなっています。Auguste L’Epée(オーギュスト・レペ) がブザンソン近郊で1839年に創業したL'Epéeは当初、オルゴールと腕時計の構成部品製造に携わっていました。L’Epéeの顕著な特徴は、全ての部分が手作りであることです。

1850年以来、製造所は目覚まし時計、置時計、ミュージカルウォッチに特化したレギュレーターのメーカーとなり、「プラットフォーム」エスケープメント生産においてリーダーシップを発揮しました。1877年までに、年間24000点のプラットフォームエスケープメントを製造していました。同製造所は、アンチノッキング、オートスタートそしてコンスタントフォースエスケープメントなど特殊なエスケープメントの特許を多数保有する著名な専門メーカーであり、また現在世に知られている複数の腕時計メーカーへのエスケープメントのサプライヤーでもあります。L'Epéeは、国際展示会において数々の金賞を獲得しています。

20世紀には、L'Epéeは最高級旅行用携帯時計でその評判を高めましたが、多くの人にとってL'Epéeは影響力と権力を持った人が所有する時計であり、フランス政府関係者から上流階級ゲストへの贈与品としても選定されていました。 1976年にコンコルドが超音速航空機として商業就航した際には、L'Epéeの柱時計が客室の装備時計として選定され、乗客への時間の視覚的フィードバックに使われていました。 1994年には、L'Epéeはチャレンジ精神に突き動かされ、調整された振り子が付いた世界最大の時計Giant Regulator (ジャイアント・レギュレーター)を構築しました。 高さ2.2メートル、重さ1.2トン、機械式ムーブメントだけでも120キロの重さがあるこの時計製造には、2800人時の作業を要しました。

L'Epéeは現在、スイス、ジュラ山脈のドレモンに拠点を置いています。L’Epée1839は CEOのアルノー・ニコラス主導の下、洗練されたクラシックな旅行用時計、現代のデザインクロック（Le Duel）、およびアバンギャルドなミニマリスト時計（La Tour）ラインナップを含む、最高級置時計のコレクションを展開しました。 L’Epéeの時計は、レトログラード・セコンド、パワーリザーブインジケーター、万年カレンダー、トゥールビヨン、および打鈴機構を含むコンプリケーションを特徴としており、すべてが社内でデザイン・製造されています。 超長時間のパワーリザーブは、最高水準の仕上げと共にブランドのシグネチャーとなっています。

**MB&F－コンセプトラボの誕生**

2015年、MB&Fは10周年を迎えます。史上初のオロジカル・コンセプトラボが経験した豊かな10年です。MB&Fを一躍有名にした、かの有名なオロロジカル・マシンとレガシー・マシンを構成する11個のキャリバーが象徴する、極限の創造性の10年と言えます。

15年間高級時計ブランドのマネージメントに徹したマキシミリアン・ブッサーは、2005年にハリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任し、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を設立。MB&Fは、ブッサー氏が尊敬しコラボレーションを共に楽しむ才能あるオロロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプトの腕時計デザインと小規模の製作を行う、アートとマイクロエンジニアリングのラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカル・マシンHM1を発表。HM1の彫刻のような3次元ケースと美を追求して仕上げられたエンジン（ムーブメント）は、奇抜とも言えるその後の同社オロロジカル・マシンの基準となりました。HM2、HM3、HM4、HM5、HM6、そしてHMX。すべては時刻を告げるためだけのマシンではなく、自らが時を知るマシンなのです。

2011年にはMB&Fはラウンドケースのレガシー・マシン・コレクションを世に送り出しました。MB&Fの視点から言えばよりクラシカルなこのラインアップは、現代的な芸術作品に仕上げる上で、過去の偉大なオロロジカル革新者が生み出した複雑エンジンを新たに解釈し直し、19世紀の優れた時計製造技術を讃えています。LM1とLM2に続いて発表されたLM101は、完全自社開発したムーブメントを搭載している初のMB&Fマシンとなりました。2015年は完全一体型のパーペチュアルカレンダーが特徴のLegacy Machine Perpetualを発表。MB&Fは、現代的かつ非常に斬新なオロロジカル・マシンと、時計製造の歴史をインスピレーションの源とするレガシー・マシンを交互に発表しています。

MB&Fは、オロロジカル・マシンとレガシー・マシンの他にも、リュージュとのコラボレーションによる宇宙時代を象徴したオルゴール（MusicMachines 1、2、3）や、宇宙ステーションをイメージしたフォルムの独特な置時計（StarfleetMachine）、クモをモチーフにした時計 (Arachnophobia)、さらに2つのロボットクロック（MelchiorとSherman）を製作しています。

またMB&Fの軌跡における、その革新的な本質を証明する受賞機会もありました。すべてを網羅することはできませんが、2012年の「ジュネーブ時計グランプリ」では、レガシー・マシンNo.1が「パブリック賞（オロロジーファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」を受賞。2010年の同グランプリでは、HM4サンダーボルトで、「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。そして2015年には、HM6スペースパイレートが、国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最高位の「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しました。